

大淀川水系の特徴と課題

- 洪水対策
 - ・ 近年、既定の計画流量以上の洪水が頻発
 - ・ 都市部における度重なる内水浸水被害の発生

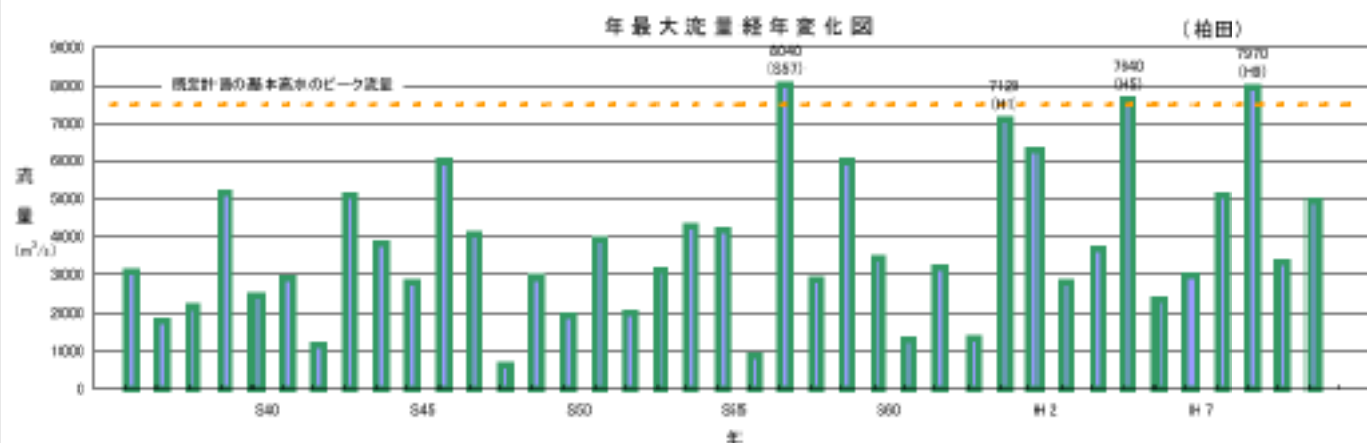
- 河川空間の利活用と豊かな自然環境
 - ・ 多様な河川空間の利用
 - ・ 多様な動植物の宝庫

- 健全な水循環の構築環境
 - ・ 大淀川サミット（流域一体となった水質浄化への取り組み：H3～）
 - ・ 豊かで安定した流況

大淀川における現状及び特徴

◎近年洪水の概要

○近年、既定計画流量以上の洪水が頻発している



・既定計画

工事実施基本計画 (昭和40年策定)
基本高水のピーク流量 : 7,500m³/s
計画高水流量 : 7,000m³/s

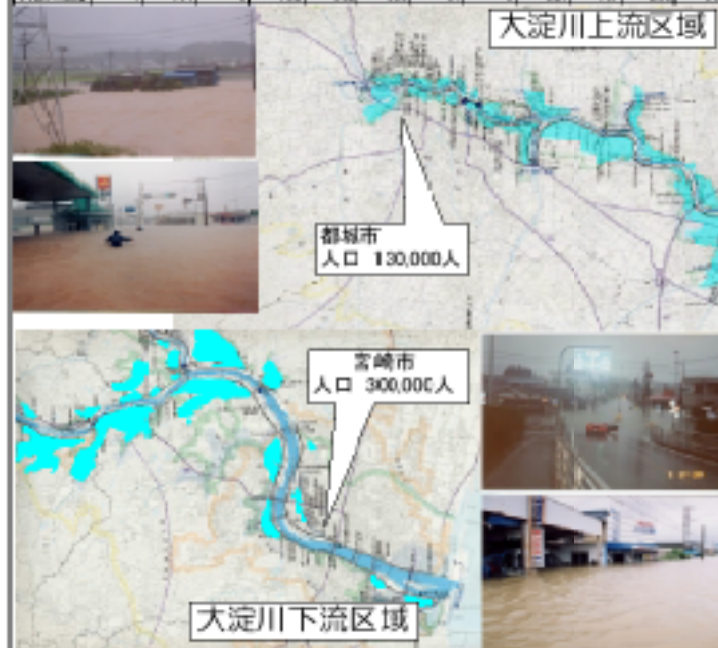
- ・昭和57年8月洪水→8,040m³/s
- ・平成5年8月洪水→7,640m³/s
- ・平成9年9月洪水→7,970m³/s

平成元年7月洪水
(下流域: 宮崎市瀧洲地区)



○度重なる内水被害の発生
近年4洪水における大淀川流域の内水被害状況

地区名	昭和57年8月洪水			平成5年8月洪水			平成9年9月洪水			平成元年7月洪水		
	被害戸数	被害人口	被害面積 (ha)	被害戸数	被害人口	被害面積 (ha)	被害戸数	被害人口	被害面積 (ha)	被害戸数	被害人口	被害面積 (ha)
大淀川下流	231	328	498	1,085	1,546	1,470	717	774	926	244	292	514
大淀川上流	7	154	9	102	352	636	54	9	527	152	258	939



課題等

○近年、既定計画流量以上の洪水が頻発している

・近年、計画規模相当及び、それを上回る洪水が頻発している。(S57, H5, H9)

・宮崎県の人口1, 2位である宮崎市、都城市を貫流している等の重要性

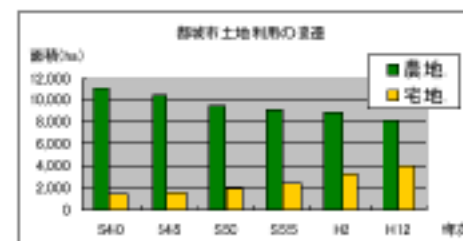
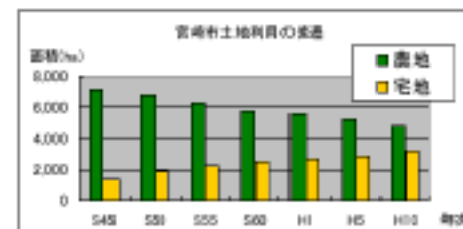
・現計画策定 (昭和40年) 以降の背後地の発展

→治水安全度の再検討

→基本高水のピーク流量の再検討

○度重なる内水被害の発生

・堤内地側の急速な都市化に伴い、内水被害が増長



→具体的な内水排除施設計画の策定

◎大淀川流量改定フロー

工事実施基本計画

度重なる洪水の発生

既定計画の見直し

基本高水ピーク流量の検討

高水処理計画

- ①計画高水流量の検討
- ②洪水調節施設の検討

基本高水及び計画高水流量の決定

○工事実施基本計画(昭和40年策定)

基準地点:宮崎
計画規模:1/70
基本高水のピーク流量7,500m³/s
計画高水流量 7,000m³/s

○近年、3回にわたり既定計画の基本高水のピーク流量を超える洪水を経験

S57.8 → 8,040m³/s
H5.8 → 7,640m³/s
H9.9 → 7,970m³/s

①治水安全度の変更 (1/70→1/150)

②基準地点の変更 (宮崎→柏田)

①計画降雨継続時間:48時間

②計画降雨量:573mm

③代表洪水の抽出

1次選定:代表的な15洪水の降雨パターンを抽出

2次選定:計画降雨量まで引き伸ばし時間分布、地域分布の偏ったものを棄却し
4降雨パターンを抽出

④4降雨パターンを流出モデルにより算定しその最大値を採用→9,700m³/s

【流量確率(基準地点:柏田1/150) 9,400m³/s ~ 11,000m³/s】

河道での処理方策(掘削・引堤・嵩上げ)と流域での洪水調節施設を比較検討し、

柏田(基準地点)における計画高水流量を8,700m³/sとする

柏田(基準点)における基本高水のピーク流量9,700m³/sを

河道への配分流量 : 8,700m³/s

洪水調節施設による調節量 : 1,000m³/s

とする。

基準地点柏田における

基本高水のピーク流量 9,700m³/s

計画高水流量 8,700m³/s

◎河川空間の利活用と豊かな自然環境

○多様な河川空間の利用



綾北川(15/000 m 付近)



大淀川(2/500 付近)



大淀川(4/500 L 付近)

◎橋公園
観光客の発祥の地として大淀川河畔に昭和23年に開設し、文楽川端建威の作品の舞台ともなった場所であり、「観光客のシンボル」ともなっている。

大淀川(3/500 L 付近)



大淀川(5/500 L 付近)



パルーンビア(都城市)

大淀川(6/700 L 付近)

○多様な動植物の宝庫



絶滅危惧Ⅰ類

大淀川



準絶滅危惧



絶滅危惧Ⅱ類

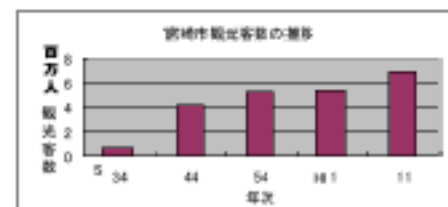


準絶滅危惧

アカメ

○多様な河川空間の利用

- ・「地域の顔」となり流域各地で多様な利活用が行われている。
- ・宮崎市における入込み観光客数の推移



- 観光資源としての河川整備への取り組み
- 地域活性化への支援

○多様な動植物の宝庫

- ・多様な生態系に見る豊かな生育環境
- 貴重な自然環境を継承する河川整備の充実

◎健全な水循環の構築

○大淀川サミット(流域と一体となった水質浄化への取り組み H3～)

【設立趣旨】

平成3年の九州一級水系水質ランキングにおいて、ワーストランキング1位になったことを契機として、流域16市町村が各行政区域の枠組みを越え、河川浄化活動を目指して、平成5年7月に設立。

【「大淀川サミット」でのとりくみ】

流域16市町村にて「大淀川をきれいにする統一条例」を制定し、下記項目等について河川浄化及び河川愛護の推進に努めている。

- ・生活及び事業排水等の浄化処理施設の推進
- ・定期的な水質検査と公表
- ・河川浄化等推進員の委嘱による河川環境の形成促進
- ・河川に関する知識の普及及び意識の高揚を図るための啓発活動

大淀川 BOD(75%値) 経年変化図

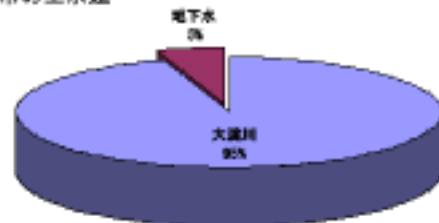


汚濁負荷の割合



○大淀川の安定した流況

・宮崎市の上水道



・昭和7年の水道行政開始以来、70年以上にわたり、渇水等による取水制限を実施したことがない。

○大淀川サミット(流域と一体となった水質浄化への取り組み)

- ・上流域では、利水のほとんどが豊富な地下水への依存
- ・下流域では、上水道のほとんどが河川水を取水
- ・上流域の産業は、畜産を主体とする農業
- ・汚濁原因は、生活排水と畜産排水が主

→「大淀川サミット」への支援をはじめ、健全な水循環の確保や良好な水質・豊かな水量の確保及び保水を図る。



○大淀川の安定した流況

- ・多様な生態系を維持する豊かな流況
- 流水の正常な機能を維持するための流量を確保する。

●基本高水のピーク流量と計画高水流量

既定計画

基準地点 宮崎

計画規模 1/70

基本高水のピーク流量 7,500m³/s

近年の洪水（既定計画を上回る洪水が頻発）

昭和57年8月：8,040m³/s

平成5年8月：7,640m³/s

平成9年9月：7,970m³/s

既定計画の見直し

治水安全度：1/70 → 1/150

基準地点：「宮崎」 → 「柏田」

基本高水のピーク流量

- ・計画降雨継続時間：48時間
- ・計画降雨量：573mm
- ・基本高水のピーク流量：9,700m³/s
(流量確率：9,500m³/s～11,100m³/s)
- ・計画高水流量 8,700m³/s

●正常流量

基準地点 高岡

正常流量 概ね26m³/s